

上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）の説明

【上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）とは】

上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）とは、口、もしくは鼻より専用の内視鏡を挿入し、食道、胃、十二指腸を観察する検査です。ポリープや癌、炎症などの病気がないか確認し、適切な治療を検討するために行います。詳しい精査が必要な場合、組織の一部を採取し顕微鏡で確認する生検という検査を行います。またヘリコバクター・ピロリ菌の有無を確認する検査を行うことも可能です。

【検査の方法】

検査前に胃内を綺麗にするための飲み薬を服用していただきます。その後咽頭もしくは鼻腔に局所麻酔を行います。ご希望に応じて鎮静剤（静脈麻酔）の注射を行います。鎮静剤を使用しない場合、検査中に嘔吐反射やゲップ、咳き込み、腹部膨満感等が生じる場合がありますが一時的なものです。検査時間は5分から7~8分程度です。また血液をサラサラにする薬剤を内服されている場合、上述の組織検査やピロリ菌検査が行えない場合がありますので、事前に医師と相談の上検査を行います。

検査中は必要に応じて、胃の動きを抑える注射（静脈注射もしくは筋肉注射）や胃内へのミント剤の散布を行う場合があります。また詳細観察のために、人体に影響のない青い色素を散布する場合があります。

【検査に伴う危険性・偶発症】

偶発症とは検査に伴い生じる可能性がある不都合な症状のことです。上部消化管内視鏡検査は安全な検査ですが、全国調査では偶発症が発生する頻度が10万件に78件（0.078%）と報告されています。上部消化管内視鏡検査による死亡事故は報告されておりませんが、死亡の可能性もゼロではありません。考えられる偶発症として、以下のものが挙げられます。

- 1) 内視鏡のこすれや生検(粘膜の一部を採取)による出血、穿孔（穴があくこと）
- 2) 薬剤によるアレルギー（発疹・呼吸困難・血圧低下・ごく稀にショックや呼吸不全、心肺停止など）
- 3) 検査前からあった疾患の悪化（脳卒中や心筋梗塞など 症状の出ていなかった疾患も含む）
- 5) 内視鏡を口から挿入する場合の歯牙破折（歯が折れたり欠けたりすること）や治療部分の損傷
- 6) 鼻から挿入する場合の鼻出血や疼痛

細心の注意を払いながら検査を行ってまいります。万が一偶発症が発生した場合、最善の処置・対応を取らせていただきます。（入院や手術が必要な場合、総合病院へ紹介させていただきます）

【鎮静剤・鎮痛剤使用について】

当院では検査時の苦痛軽減のため、ご希望の患者様には鎮静剤の注射（静脈麻酔）を行っております。検査後は院内で少しお休みいただき、歩行や意識に問題がないことを確認後にご帰宅いただきます。検査当日は車やバイク、自転車といった乗り物の運転や、激しい運動などは控えていただくようお願いしており、特にご高齢の方はご家族同伴での来院をお勧めしております。また鎮静剤については、普段の飲酒量や内服されているお薬等が影響し、ご期待通りの効果が得られない場合もございます。

鎮静剤による副作用としては、呼吸抑制や血圧低下、薬剤によるアレルギー等が挙げられます。

ご不明な点やご質問などございましたら医師・スタッフにご遠慮なくお尋ねください。